神奈川大学・浙江大学　第10回日中学術交流シンポジウムの報告

人文学研究所所長　鈴　木　陽　一

日　時：2000年10月16日～17日
会　場：浙江大学西渓キャンパス
日本側代表団：
　　鈴木陽一（神奈川大学人文学研究所所長）
　　橘川俊忠（神奈川大学常民文化研究所所長）
　　鈴木修一（神奈川大学外国語学部教授）
　　中村浩平（神奈川大学外国語学部教授）
　　望月真澄（神奈川大学外国語学部教授）

(1)　報告者とテーマ
　10月16日（月）
　開会の挨拶　寥可斌（浙江大学人文学院副院長）
　　鈴木陽一（神奈川大学人文学研究所所長）

　1．中村浩平（神奈川大学外国語学部教授）
　　「長谷川照子－反戦活動に一生を捧げたエスペランティスト」
　2．王宝平（浙江大学日本文化研究所教授）
　　「清代の檔案資料から見た東文学堂」
　3．橘川俊忠（神奈川大学常民文化研究所所長）
　　「近世日本における儒者の社会的地位」
　4．鈴木修一（神奈川大学外国語学部教授）
　　「露伴，漱石，鴎外の作品から見たニーチェ」

　10月17日（火）
　1．望月真澄（神奈川大学外国語学部教授）
　　「白居易の詩の押韻について」
　2．張涌泉（浙江大学古籍研究所教授）
　　「日韓漢字の起源を探る」
　3．李明友（浙江大学哲学系教授）
　　「太虚法師の人間仏教思想」

(2)　その他
　1．自由交流
　　10月17日午後，日本側の報告者は関連研究所，学部を訪問し，今後の学術交流のあり方について自由に議論を行った。

2．全体の総括と今後の学術交流について

10月17日午後3時より全体の総括と，今後の交流のあり方について議論を行った。主たる内容は以下の通りである。

①今後も両研究所を母胎とし，両大学の学術交流の更なる発展を目指して双方が努力する。この目的のために，現行のシンポジウム形式を更に充実せしむるよう双方は努力する。

②学術成果の公表については，現行の形態は2000年度刊行分をもって最後とし，今後の形態については引き続き協議する。

③より広範な研究者の参加が可能になるよう，より具体的かつ豊かな研究成果が生み出されるよう双方は努力する。

（附記）以上の内容については，帰国後，日本滞在中の王勇日本文化研究所所長と鈴木陽一との間で協議し，意見の一致を見たものが含まれる。

なお，この他，10月17日には，前期シンポジウムと平行して，本学外国語学部教授大里浩秋，同専任講師孫安石両氏と，浙江大学日本文化研究所，同教育系との共催により，「日本における中国人留学生問題」のシンポジウムが開催された。報告者とテーマは以下の通りである。

1．大里浩秋（神奈川大学外国語学部教授）
「中国人日本留学史研究の現状」

2．田正平（浙江大学教育系教授），楊暁（遼寧師範大学教授）
「清末留日政策－五校特約を中心として」

3．孫安石（神奈川大学外国語学部専任講師）
「中国留学生の生活調査」

4．呂順長（浙江大学日本文化研究所講師）
「清末中日教育交流二題」

5．謝志宇（浙江大学外語学院助教授）
「中国現代作家と日本社会」

☆本シンポジウムは，両大学の交流を基礎としながら，専門的なテーマに基づく独自の，科研費の獲得による学術交流である。両大学の今後の学術交流の一つの方向性を示すものとして，今後とも研究所はこうした活動に協力していくものである。